



第4号



道着に腕を通すと表情は一変。凛々しく、堂々とした演技を披露する



全国大会出場を決める県大会で優勝

飯能スポーツ少年団「飯能空手道」に所属する佐藤千夏選手(飯能第一小学校5年)は小学校1年生から空手を始め、早々とその才能を開花。8月3日から日本武道館で開催される「全日本少年少女武道(空手道)錬成大会」の形部へ出場する。「各県のトップクラスが集まる大会で、まずは初戦突破を目指したい」と意気込みを語る佐藤選手は友人の誘いをきっかけに空手の道へ。指導する市野彰俊(66)さんは「最初から基本である構えがすでに決まっていた。素質がある選手だとすぐにわかった」と評価する。5月に県立武道館で行われた県大会5年生女子・形の部に出場し、持ち前のスピード感とキレの良さを武器に見事優勝を決め、憧れの全国への切符を手に入れた。佐藤選手は「練習は厳しいけれど試合に勝てたときが嬉しい。空手をやっていて挨拶や姿勢の良さなどの礼儀が身に着いた」と魅力を語る。技がなかなかできず、涙を流すこともあった。努力家で負けず嫌いの性格から「他の人ができるのに自分だけ出来ずに置いていかれるのが嫌」と練習を重ね、技を磨く。

「全国大会では悔いの残らないように精一杯やりたい」と凛々しい表情で語る。

佐藤選手が大きく飛躍したのは3年時に出場した大会。それまでは気持ちの面で負けてしまっていたが、最大のライバルだった他市の選手に勝利したことで自信がついた。市野さんは佐藤選手について「とにかく頑張り屋。指導すればするほど伸びるので、どんどん新しいことを教えてあげようと思う。また、同じ年齢のライバルや友人、年上に良い先輩がいたから成長につながった。

佐藤選手が活躍する未来の五輪選手として世界で活躍するよう選手群と一緒にいると話し、飯能西中学校へ進学後は部活動と空手の両立を希望している。佐藤選手は市野さん、友人、里香選手、世界で活躍し、敬している選手は宇佐美が得意で、社会と理科が苦手だ。幼稚園の頃から仲が良く、同じ道場の阿部未鈴さん、小谷野風花さん(共に富士見小学校5年)は仲間である。ライバルであり、二選手になりた。

飯一小5年

佐藤千夏

努力家、負けず嫌い

羽ばたく少女空手家

◆飯能空手道
飯能空手道は昭和47年4月に発足。飯能第一小学校を主な会場とし、毎週月曜日と水曜日に練習に励んでいる。小学生から中学生、高校生と長い活動に重点を置き、武道を通じ礼儀と基礎体力、そして強い精神力の養成を方針とし活動。現在同道場には約30人が所属し、日々鍛錬に励んでいる。市野さんは大学時代に空手を始め、同道場の発祥時から指導に携わる。「選手たちに本音でぶつかり時に厳しい指導もあるが、良い時は褒める。自分に負けなければ必ずと結果はついてくる」と選手たちに伝えている。また、空手と同じく勉強や生活態度も育てていきたい。



切磋琢磨し、練習に励む仲間たち。後列右2人目が市野さん



ライバルであり、良き友人でもある小谷野風花さん(右)、阿部未鈴さん(左)と共に